

事業報告書

1 支援団体名	公益社団法人 地盤工学会 九州支部
2 事業名称	第 15 回国際地盤工学会アジア地域会議
3 実施日時	平成 27 年 11 月 9 日～11 月 13 日
4 実施場所	福岡国際会議場
5 事業目的、内容及びその効果	(事業実施状況・内容) アジア各国の地盤関連の学識者による最新の研究発表の他、ESD(エンジニアリングセッションデイ)と称した実務者主体の発表の場を開設し、現場等を踏まえた技術情報を発信することができた。特に九州地方整備局関係者による新技術情報システム (NETIS) の仕組みや九州の自治体による九州特有の地盤対策などについての発表も含まれた有意義な会議となった。また、将来の土木技術者を目指すグローバルな学生の育成にも寄与するものと位置づけ多くの学生に参加していただくとともに、一般市民に向けて特別講演や施工機械などの技術展示を公開することができた。
	(事業実施効果) 地盤工学は河川、道路など土木工学のあらゆる分野に関係しており、日本のみならずアジア地域全体でも重要な分野である。地盤工学分野で対応すべきものとして河川堤防の維持やダム湖周辺の斜面对策への活用など、防災の観点からも研究成果に期待される。豪雨時にダム施設周辺斜面（特に切土斜面）の崩壊が発生しやすいことを考慮すると、地盤工学を駆使した斜面安定技術の発展は極めてアジア地域においても大きな効果をもたらすと考えられる。今回の会議においても、地盤災害の報告や斜面安定技術の展示など国内外に対して有意義な情報交換がなされていた。また、国土交通省で永年道路に関わってこられた大石氏による特別講演「国土が日本人の謎を解く」は地理、歴史観も含めた興味ある内容で、あらためて日本を見つめ直す良い機会となったであろう。今回の会議はシリーズ上最も参加者が多く、盛大かつ活発に行われた最も成功した例となったことは間違いない。
6 参加内訳	総人数 1,169 名
	(1) 主催者参加 108 名
	(2) 日本人参加 ((1) を除く) 658 名
	(3) 外国人参加 ((1) を除く) 403 名
7 今後の方針	本アジア地域会議は 4 年に一度、国際地盤工学会の下で開催される地域会議であり、開催国は1つ前の会議において投票で決定される。我が国での開催は 28 年ぶり 3 回目であった。今回の会議では技術者が企画・運営する新たな企画を設けたが、今後このような実務と学術の融合が図れる企画の継続をアジア地域会議において提唱していきたい。

ISSMGE 会長による開会挨拶



ESD 基調講演者



大石氏による特別講演



展示会場



同時通訳を利用した講演聴講



一般セッション

